

平成24年度
第5期徳山地区地域審議会(第6回)
会 議 録

日 時：平成24年9月20日(木)

場 所：周南市役所3階 防災対策室

徳山地区地域審議会 会議次第

平成24年9月20日（木） 午前13時30分から
周南市役所3階 防災対策室

1 開会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ

4 議事

(1) 徳山地区にとって重要と思われる事業の検討について

(2) その他

5 閉会

平成24年度 第5期徳山地区地域審議会（第6回） 会議録

日 時 平成24年9月20日（木） 13時30分から

場 所 周南市役所3階 防災対策室

出席者 ・委員 14名（欠席1名）

弘中 壽、中村俊道、角谷みのり、久野三砂子、服部恭弥、佐野千鶴子、丸山康子、小田直美、有馬俊雅、石川英樹、田村隆弘、岩崎敬三、田中義啓、柳 泰浩

・事務局 5名

山下企画総務部長、坪金政策企画課長、有間係長、福田主査、守重主任

資 料 ・会議次第のとおり

会 議 議 事 録

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ（企画総務部長）

だんだん過ごし易い季節になってきたと思います。

第5期徳山地区地域審議会は昨年の10月に開始し、本日で第6回目となります。

徳山地区にとって重要と思われる事業の検討ということで、前回の引き続きになりますけれども、どうぞよろしく申し上げます。

4 議事

（1）徳山地区にとって重要と思われる事業の検討について

○会長 前回と同様、徳山地区にとって重要で、今後、重点的に取り組む必要があると考えられる事業について協議をお願いします。

市民生活について

○会長 体系図の2番目にある市民生活について、ご自由にご意見を出していただければと思います。

●委員 地区ごとに年数回ほど人権の推進や啓発のための集まりを、市が主体で行われていると思うのですが、あまり積極的に参加されない地区もあります。

もう少し積極的なPRをして、市全体に人権への関心を広げてほしいです。

また、人権教育の内容についても、一昔前に扱っていた内容をいまだに使用するのではなく、現在のニーズに合わせた教育を行ってほしいと思います。

人権教育の対象は時代とともに変わっていると思います。

●委員 人権は人間の基本的なことです。最近では陰惨ないじめが目立ちますが、いじめ問題の根本にはやはり人権教育が関わっていると思います。よって、積極的な啓発活動を行ってほしいと思います。一番小さな社会が家庭だと思いますが、家庭を通じた人権教育を市がどの程度行っているかは分かりませんが。

●委員 人権に関する悩みごとがあった場合、どこに相談しに行ったらよいか分かりません。

◇事務局 広報でもご案内していますが、人権擁護委員という方が市内に14人いらっしゃいます。

人権の悩みも人それぞれなので、市では人権施策を推進するに当たり、附属機関を3年前に作りました。また、人権推進指針も作成しておりますが、これらの周知がされていないということは事実でございます。

人権教育につきましては、人権教育推進協議会を作って、バラエティに富んだ人権の講演会等を実施していますが、参加者は少ないです。

●委員 人権教育の対象者が誰なのかよく分かりません。教育委員会で人権教育を推進していますが、対象が生徒なのか地区住民全体なのかははっきりしません。そのため、地区住民も積極的に参加してないです。

学校でのいじめや暴力事件も、人権の大切さが浸透していないから起きるのではないのでしょうか。教育の対象をもう少しはっきりさせて、効果的な対策をしてほしいという感じがします。

○会長 市民生活のところでは、コミュニティが一番大きな問題だと思います。皆さんコミュニティに関係している方ばかりですが、市の施策に対してご意見等ございますか。

●委員 地区の集まりにしても、参加される人が限られているので、多くの人が参加するようにできればよいと思います。

●委員 私が住んでいる地区は、限られた人口構成の中で色々なことを決めています。同じ人が、色々な行事の役員を兼ねているので、企画を行っても斬新なアイデアが出てきません。マンネリ化で不活性という感じです。

●委員 大道理は、地区外の人が空き家に移り住んできますが、そういう方とのふれあいが大事だと思います。お年寄りには、移住された方に対して「よそ者」という意識で接していますが、「大道理をよくする会」はそういう方に声をかけて、地区の行事に出てもらおうようにしています。

皆と一緒に活動をする中で、お年寄りの移住者に対する理解も変わってきています。

●委員 移住して来られた方は、ずいぶんと地域に貢献していますよね。都市部も空き家が増えています。空き家が増えると、家が崩れたり、草が生えたりと、心配事が増えてきます。その場合、中山間地域に限らず、都市部へも市の補助は出るのでしょうか。

◇事務局 市が取り組んでいるのは、中山間地域への移住を促進するために、「お試し住宅」を作る場合に補助を出しています。もうひとつは空き家バンクです。こちらは、中山間地域に限らず、空き家を登録していただくと、買い手に情報提供いたします。

●委員 私の地区は自治会長が41人いますが、その中で、毎年交代するのが約6割です。つまり、自分の地域のことをよく知らないまま交代しています。自分のまちのことをよく知り、まちを良くしたいという意欲が薄れているような気がします。

地域住民の結びつきを良くするための行事を計画していますが、最近では、参加者が少ないため、隣の自治会から人手を借りてもよいことになっています。年齢構成も歪になっています。

●委員 テーマの一つとして協働のまちづくりがありますが、協働のまちづくり、コミュニティの活性化という話は、少子高齢化が進んでいる現在、今まで通りの仕掛けでは対応できない可能性があります。少子高齢化に対応したコミュニティの作り方を研究し、新しく展開していく必要があると思います。

○会長 今の時代、協働のまちづくりを進めるにあたり、特に中山間地域は外部からの支援がなければ難しい時代になってきています。また、一部の地域では自治会長が頻繁に交代しているところもあり、地域づくりやコミュニティづくりが非常に難しくなっています。そのような状況の打開が必要だという意見が多かったように思います。

人権教育については、市民へのPRの必要性を皆さん強調されたような気がしました。

福祉・保健・医療について

○会長 次に進みたいと思います。3番目の福祉・保健・医療ということで、テーマとしては、「充実した福祉」、「安心して子育てができる」、「健康に暮らせる」、とあります。この分野で、今後、特に徳山地区でというものがありませんでしたらお願いします。

●委員 自助、共助、公助とありますが、公助が至れり尽くせりのような気がします。そのような予算があるなら子育て等へ回した方がいいのではないかと思います。

福祉施設が充実しているということよりも、自立やお互いの助け合いが重要だと思います。お年寄りの中にも、人を助けたいという人もいます。

そういう人達が、公民館を活用しながら皆で助け合いながら生活できればよいと思います。

福祉委員の方々がいきいきサロンを運営していますが、予算がありません。共助の担い手になっている人達に何の補助もないのはどうなのかなと思います。

○会長 周南市はお金を使いながら福祉を手厚くしているけれども、自助や共助を強化する方向にシフトしてはどうかという意見がございました。

●委員 事業の内容が高齢者に偏り過ぎていると思います。

○会長 以前は一人暮らしの高齢者支援が重点的に行われていましたが、少子高齢化が進展するにつれ、若者世代を支援する必要性も出てきました。

しかし、支援の方向性も急には変わらないと思います。

現在は、高齢者自体も恵まれた世代、地域を担っていく存在に変わりつつあり、時代の狭間なのかなという感じがします。

●委員 緊急通報システム「さすがの早助^{さすけ}」、これを一人暮らしの高齢者世帯に設置していますが、DV対策としても負担が無いように提供できないでしょうか。

どうしても対策が高齢者に集中している印象がありますが、福祉の幅を広げてほしいです。

●委員 父親が80代でデイサービスを利用しており、大変助かっています。

家での介護の必要性も十分理解していますが、仕事の都合上なかなか難しいです。

周南市の福祉が、至れり尽くせりであることはよく分かりますが、実際にお年寄りの世話ができる家庭環境でない人もたくさんいるということは考えてほしいです。

●委員 福祉活動に公民館を有効活用できないでしょうか。

現在、公民館は生涯学習の場となっていますが、地域交流やお年寄りの行き場所という意味合いもあると思います。

●委員 田舎でも、元気なお年寄り、休校中の小学校を利用してサロンを開いています。皆さんボランティアで活動しています。デイサービス等の施設に大金をかけるよりも、地域でのそういう活動を活発にする取り組みが必要ではないでしょうか。

○会長 たくさん意見が出ました。

周南市は厚みのあるサービスを展開していますが、高齢者にも色んな方がいらっしやるので、高齢者だけでなく他の人のことも考えましょうということでした。

また、公民館の多機能化についても意見が出ました。

●委員 安心した子育てということで言えば、私たちの頃と比べて環境は良くなっていると思います。

しかし、孤立しているお母さんは把握できないので心配です。

また、こどもが生まれた直後は、母推さんや保健師さんがお伺いしていますが、その後はどうなっているのか分かりません。

また、待機児童の問題があります。実際に、私の周りでも働きたいけど保育所の空きがないという話を聞きます。

お年寄りも大切ですが、子育ても大事にしてほしいです。

全体的に、お年寄りの方が優遇されている感じがします。昔と今のお年寄りは違うので、敬老会をはじめとする30年前から継続している行事をそのまま続ける必要があるのでしょうか。

●委員 子育てについては、見守る目というのが浸透しており、児童虐待の通報も増えています。

通報があって調査に入るのはいいのですが、後のフォローが無いです。

通報により犯罪者扱いされて萎縮しているお母さんが結構いらっしゃるの、これは問題ではないかと思います。その辺りまで考えて子育て環境を整えていただきたいと思います。

○会長 高齢者対策は大切ですが、もう少し子育て世代に目を向けた施策をとというのが皆さんの意見ということでよろしいでしょうか。(異議なし)

安心安全について

○会長 次に、4番目の安心安全の分野です。「安心安全に暮らせる」ということが、まちの姿として出ております。防犯や交通安全、市民相談等の基本施策がございしますが、皆さん何かご意見ございますか。

●委員 市民は災害に関して意識不足というか、危機感がありません。災害時にどこへ避難すればよいかということも皆さん理解されてないと思います。

地域防災をコミュニティに任せるのであれば、具体的な市の考え方について、自治会連合会などに伝授してもらいたいです。

そして、各自治会単位で自治会長が地区民に対して丁寧に説明していかないと、実際に災害が起きた際に何も機能しないのではないかと危惧しています。

●委員 災害発生時にお年寄りや民生委員、福祉委員の所在に関するマップを作っていますが、個人情報保護法のため有事の際しか開示ができないため、把握ができていません。

災害が起きてからでは役に立たないと思うので、何かよい方法があればと考えています。

●委員 住民にできることは、避難経路と危険箇所の把握だと思います。

この2点に焦点を絞って地区住民に呼び掛けています。

●委員 災害対策において、復旧、復興という言葉が入っていません。

岩手県へ復興支援に行って感じたのは、ボランティアの受け入れの差が、1年半経った今になって、復興のスピードに出てくるということです。

ボランティアを積極的に受け入れた自治体は、災害が起きる前の状態に近いほど復興していました。

また、仮設住宅への入居についても、同じ地域でまとまって仮設住宅へ入居したところは、コミュニティもうまく機能していましたが、バラバラに入居したところは、コミュニティが全く機能していません。

実際に災害が起きた際に、早期の復旧、復興に向けた対策や計画が必要だと思います。

●委員 徳山高専では、小中学校で防災教育を行っています。

先日、菊川小学校で周南市の防災マップを使って、家から避難所までの経路を探するという作業を行いました。ほとんどの児童が辿り着けませんでした。避難所の数が少なく、避難経路に必ず危険地域が入ってくるからです。

つまり、災害が起きると大変な状況にあるということです。

この深刻な状況は子ども達には把握しづらいですが、親なら危機感を感じると思うので、お父さんやお母さんにこの現状が直接届けばいいなと思いました。

体系的に防災教育というものを考えて、市民全体に浸透させるためにはどうすべきかを施策として考える必要があると感じました。

●委員 個人情報との関係で、民生委員ではお子さんの家庭の把握ができない状況なので、学校で防災教育を行ってほしいです。

●委員 今年の3月11日に、商店街で防災イベントを行いました。参加者は一握りでした。多くの市民の方に来てもらうため、多数のイベントを行いました。関心がほとんど無いことに驚きました。

普段、商店街に買い物に来るお年寄り、避難場所も把握してないと思うので、災害が発生した際は逃げ切れないと思います。

●委員 光市の防災施設にシミュレーション機械があります。

防災は知識が必要ですし、関心がないと災害時に命を落とします。周南市には防災施設は無いですが、このような施設に子どもを勉強に行かせて、大切さを教えるべきだと思います。

○会長 きちんとした形の防災教育を地道に進めていくしかないかもしれませんね。

環境共生について

○会長 それでは、5番目の環境共生ということで、「環境にやさしいまちで暮らせる」、「快適な生活環境で暮らせる」ということをございます。

○副会長 ごみの問題については、リサイクルプラザとしてハードは完成しています。

しかし、ごみを減らすことを究極の目的にするのであれば、ソフト事業というか、家庭ごみを減らすための対策が不十分な気がします。

ごみの減量に繋がる取り組みをしてもいいのではないかと思います。

●委員 黄色いごみ袋を容器包装とその他プラスチックというように、同じ袋なのに種類を分けて捨てたりと、分別がとても煩雑です。

先日もリサイクルプラザの火災があったようですが、分別できない人がいるから、事故が起こるのだと思います。分別に関して、効率的かつ分かりやすいようにできないのでしょうか。

◇事務局 リサイクルプラザの構造上、分別方法を変えることは難しいと思います。分別は非常に大変だと思いますが、慣れてもらうしかないと思います。

○副会長 分別の仕方が分かり難いので、それに対する対策が必要だと思います。例えば、PR方法を変えるとか、各地区の指導役であるクリーンリーダーを強化してはどうでしょうか。

○会長 ごみの問題については、市民にも責任があります。市には、ごみ自体の減量化に関する取り組みに加えて、効果的なPRをしてほしいということによろしいでしょうか。(異議なし)

都市基盤、産業・観光について

○会長 次に都市基盤ということで、意見を出していただきたいと思います。

中心市街地をはじめ、道路、港、交通体系の充実等ありますが、徳山地区にとって重要と思われる事はございますか。

●委員 現在行われている港湾の整備は市の活性化に繋がるとは思いますが、港湾1点集中ではなく、フェリーターミナル辺りから駅の裏までの空間も整備すれば港全体が賑わいを持ち、市街地の活性化に繋がるのではないのでしょうか。

港から動物園までの数キロのラインに重要な施設が多くあるので、この一帯を整備すれば住み良いまちになるとは思います。

●委員 中心市街地の活性化にとっても興味があります。

港から動物園まで歩いて回れる距離にあるまちは全国的にも珍しいので、委員の言われたことは重要だと思うし、中心市街地に人を呼ぶためにも必要だと思います。

大きい箱物を作る必要はなく、こどもやお年寄りが行きたくなるようなまちづくりが必要だと思います。

●委員 観光にも繋がる話だと思います。先人達が新幹線の駅を港近くまで引っ張ってきて、全国で最も海に近い新幹線の駅なので、高架を高くして、見晴らしを良くしています。先人の政治家はそのような観点でこのまちを発展させてきましたが、その意思を受け継いだ形の施策、まちづくりができていません。

周南市は海と山とコンビナート群、中心市街地をうまくミックスさせて発展させないといけないと思います。コンビナート群は知識人が沢山いらっしゃいます。山の財産、海の財産もあり、知識人もたくさんいるので、そのような資産を生かしてこのまちを発展させることができるのではないのでしょうか。

埋没した資産が周南市には沢山ある気がするので、そのような観点から都市基盤と観光というものを考えると良いのではないのでしょうか。

●委員 景観についてですが、周南市の景観条例には景観の定義がされていません。景観とは、他人から見られるものか、自分が見ている周りのことなのか、曖昧なのではっきりする必要があると思います。

例えば太華山について言えば、山頂からは、コンビナート、山、海、島々がよく見えて眺めがいいが、同時に山自体が綺麗でないといけません。したがって、徳山駅から見た景観という場合、徳山駅も綺麗でないという意味がないです。

現在、周南市における良好な景観資源といえば、古くて由緒あるお寺などの歴史的建造物が主流となっていますが、それは寺の歴史や遺物に価値があるわけで、もう少し秩序だった考えをもとに見直すべきだと思います。

港の開発の話とも関係があるのですが、今話題になっている再生エネルギーについて、徳山湾周辺でソーラーパネルを置くことを提案している人がいると聞きます。よい事だと思いますが、太華山および、仙島、黒髪島も国立公園の特別地域に指定されているので、山頂から見た場合に、景観を阻害することがないように十分配慮して行うべきだと思います。市の活力を高める必要もあるので、知恵を出して行ってほしいです。

○会長 都市基盤と産業・観光については、景観であるとか、港から動物園までのラインにおいて市民の方が住みやすさを感じるような空間づくりを行ってはどうかというご意見でした。

皆さんよろしいでしょうか。(意見なし)

以上で終了したいと思います。

5 閉会

◇事務局 以上をもちまして、第6回徳山地区地域審議会を閉会いたします。

皆さん、お疲れ様でございました